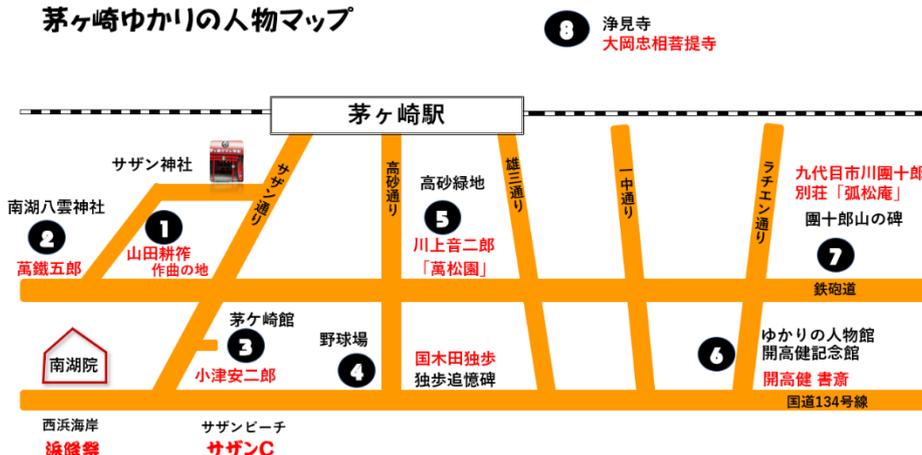


わが町ゆかりの人物を訪ねて

淡嶋 英昭

退職後に散歩を始め、その行動範囲を徐々に広げてきましたが、コロナ感染拡大に伴い基礎疾患を持つ身としては電車やバスなどの移動手段を控えざるを得ない状況になっています。この機会に普段何気なく歩いてきた道で、この町に“ゆかりある人物”が過ごした場所に絞り歩いてみました。場所が判らず何度も往復したことも有りましたが、調べてみた結果をここに纏めました。では、ズボンのポケットにスマホを入れて歩いてきましたのでその内容を紹介します。

茅ヶ崎ゆかりの人物マップ



1 山田耕筈「赤とんぼ」作曲の地（旧居跡）

茅ヶ崎駅南口からサザン神社を通過し5分ほど歩くと郵便局の向かいの駐車場に案内板があり、矢印に従い進むと山田耕筈「赤とんぼ作曲の地」という手書きの解説板がありました。オーケストラ楽団の失敗と多額の借金を抱え憔悴した耕筈は、1926年（40歳）家族とトラック3台分の楽器と共に静かな海辺のこの家に居を移し6年間過ごしました。耕筈は、ここで作曲意欲が高揚し、東京へ往復利用する列車の中でも詞の余白に5線を引きメロディーを書き込むなどして、数週間で「赤とんぼ」「この道」「砂山」など童謡100曲を作曲しています。



山田耕筈住居跡



「あかとんぼ作曲の地」解説板

竹かんむり

耕作から耕筈に改名
ハゲ・かつらを付けると
言われた耕筈の答えは
竹かんむりを付けること
(ケケ→毛毛)である



萬 鐵五郎
茅ヶ崎海岸にて

2 南湖院で療養した日本の洋画界の先駆者「萬 鐵五郎」

南湖八雲神社境内の片隅に解説板がありました。鐵五郎は1918年（33歳）過労と睡眠不足から神経衰弱気味となり、更に肺結核に罹り1919年（34歳）弟が住む南湖八雲神社近くに転居。南湖院（結核療養所）で療養を始めました。療養中は、市内南湖の海辺や隣町の柳島の風景等を多く描き作品を残しましたが、1927年（41歳）茅ヶ崎の自宅で死亡しています。



南湖八雲神社解説板

3

あの名作が生まれる「物書き宿」 小津安二郎が愛した「茅ヶ崎館」

サザン通りを南に進み左折すると「茅ヶ崎館」が見えてきました。映画の巨匠、小津安二郎監督は、1937年に初めて「茅ヶ崎館」を訪れ以後、投宿しながら脚本執筆し20年間で「晩春」「麦秋」「東京物語」等の代表作品をここで生み出しました。

最近では是枝裕和監督が2007年から毎年のように宿泊して脚本を書いています。樹木希林さんは、女優生活57年最後の出演映画『命みじかし、恋せよ乙女』の撮影に訪れています。また、ここには日本最古と言われる木製サーフボードが保存されています。



小津安二郎

4

最後の141日を茅ヶ崎で過ごした国木田独歩（独歩追憶碑）

茅ヶ崎公園野球場スコアボード裏の駐車場脇に「独歩追憶碑」がありました。小説「武蔵野」で知られる小説家、詩人、国木田独歩は1907年に肺結核に罹り1908年2月4日から茅ヶ崎の「南湖院」（結核療養所）で療養生活を始めました。この時の「病床録」が「読売新聞」に連載され、南湖院の名が一躍高まりました。独歩のわがままと癪癪持ちは誰もが認めるところで、院長は声を出さないよう注意していたが、来訪者との談話は数間離れた病室でもはっきり聞き取れたといいます。6月23日大量の咯血と同時に何の苦悶もなく38歳で最後を迎えています。



国木田独歩追憶碑

5

市川團十郎を慕い隣人になりたかった川上音二郎と貞奴（高砂緑地「萬松園」跡）

オッペケペー節というご存じの方もいると思いますが、明治期の興行師、芸術家、新派劇の創始者、川上音二郎は1902年（38歳）欧州公演から帰国後、茅ヶ崎に住む市川團十郎の隣人になりたくて現在の高砂緑地に愛妻貞奴と共に本宅を構え「萬松園」と名付けました。線路脇に櫓を建て、村民のために「ヴェニス商人」を公演したり、團十郎の葬儀には弔問客のために道を整備するなど尽力しています。駅近くに演劇学校を創立する予定もありましたが1911年急性腹膜炎で昏睡状態となり貞奴の願いにより建築した「大阪帝国座」舞台上に運ばれ47歳で死亡しました。高砂緑地には、現在も当時の井戸枠が残されています。



毎年高砂緑地で開催される“音貞オッペケ祭り”



川上音二郎貞奴モニュメント



残された井戸枠



川上音二郎貞奴隠し部屋跡
オッペケペー節で人気を博したが、その政治的表現の為20回以上逮捕された。2人は、現在の茅ヶ崎駅近くの魚屋の中二階に身を潜めた時期もあります。

6

1人で執筆に集中したく単身で引っ越した開高健（邸宅は開高健記念館として開放）

ラチエン通りを海に向かって歩くと右側に「開高健記念館」がありました。作家、コピーライターとして活躍後「裸の王様」で芥川賞を受賞した開高健は1974年（44歳）から1989年（58歳）で亡くなる迄15年間うっそうとした木が生い茂った環境の良いここを起点として活動を展開しています。現在開放している書斎の中にはベトナム戦争従軍体験時の鉄製ヘルメットや釣り旅行など資料が当時そのままの形で展示されています。1957年（30歳）に茅ヶ崎に移住し茅ヶ崎駅前のマンションの一室を仕事場とした直木賞作家の「城山三郎」とは深い親交があったようです。



サントリーキャッチコピー
“「人間」らしくやりたいナ
トリスを飲んで「人間」らしくやりたいナ
「人間」なんだからナ”

「入ってきて人生と叫び 出て行って死と叫ぶ」
開高健が色紙に好んで書いた言葉が石碑に残されている

7

釣りが趣味で茅ヶ崎に居を移した九代目市川團十郎（團十郎山の碑：別荘「孤松庵」跡）

鉄砲道を東に向かって歩くと交番の横に「團十郎山の碑」がありました。奥には松林で囲まれ、地元では「團十郎山公園」として親しまれている場所があり、ここが別荘跡地の一部になります。明治時代に活躍し「劇聖」と言われた歌舞伎役者、九代目市川團十郎は、1896年（58歳）住んでいた別荘が火事により焼失したことを機に海に近く釣りが楽しめる鉄砲道脇の6千坪の地に別荘を建てました。別荘は「孤松庵」と名付け敷地内に稽古場を備え次世代の歌舞伎界を担う若手を育成しています。1903年（65歳）孤松庵で死去した際は、同じく茅ヶ崎に居を構えた新劇俳優の川上音二郎が葬儀を仕切り、大磯に住む伊藤博文の弔辞も川上が代読しています。



8

大岡家菩提寺（浄見寺）と大岡越前まつり

茅ヶ崎駅から北に1時間ほど歩きゴルフ場（300ゴルフクラブ）を抜けると、大岡家の菩提寺である「浄見寺」がありました。江戸時代の名奉行、大岡越前守忠相を輩出した大岡家は茅ヶ崎に領地を持ち統治していました。墓所は普段柵に囲まれ中には入れませんが、年1回開催される大岡越前祭りの時に開放されます。



大岡家菩提寺



大岡越前祭りパレード

最後に、南湖院は、当時東洋一と称された結核療養所で、多くの文化人が療養し見舞いの家族も訪れています。姉が療養し度々訪れた女性解放運動家「平塚らいてう」は、ここで5歳年下の画家奥村博史と運命の出会いをします。博史から、らいてうに送られた手紙の中の「あなたが雷鳥なら私は若い燕」という言葉から年下の男性の恋人を「若い燕」と呼ぶ流行語が生まれています。高砂緑地にはらいてうの石碑が立っています。

毎年開かれてきた「大岡越前祭」（4月）と「浜降祭」（7月「海の日」）は、2020年から3年間開催中止。祭りは、見るだけの私ですが、早起きして海岸までの散歩を楽しみにしています。